

西播磨地域夢会議の結果概要

日 時：平成23年6月5日(日)13:00～16:20
場 所：県立先端科学技術支援センター 大ホール(上郡町)
参加人数：約150名
主 催：西播磨地域ビジョン委員会・西播磨県民局

1. 開催趣旨

現在見直しを行っている改訂版「西播磨地域ビジョン」(案)及び「新しい21世紀兵庫長期ビジョン(原案)」の周知と意見交換に加え、西播磨地域ビジョン委員がこれまで取り組んできた2年間の活動報告とこれからの活動目標について発表会を行いました。

また、先の東日本大震災で大きく取り上げられている、放射能・放射線の影響やこれから予想されるエネルギー問題について、有識者による講演会を開催しました。

2. テーマ

「未来へつなげよう西播磨から」～地域を活かす夢のかけ橋～

3. プログラム

- 13:00～ 開会あいさつ
西播磨地域ビジョン委員会委員長 山本 建志
兵庫県西播磨県民局長 藤原 由成
- 13:10～ 第1部
「新しい21世紀兵庫長期ビジョン(原案)」プレゼンテーション
兵庫県政策監 高井 芳朗
改訂版「西播磨地域ビジョン」(案)プレゼンテーション
西播磨地域ビジョン委員会委員長 山本 建志
意見交換
講評
兵庫県副知事 金澤 和夫
- 14:20～ 第2部
活動発表
第5期西播磨地域ビジョン委員会各推進チーム
コメント
兵庫県副知事 金澤 和夫
講演
講 師 兵庫県立大学環境人間学部 教授 熊谷 哲 氏
テーマ 「原発事故と親子で取り組む省エネ」
- 16:20 閉会あいさつ
西播磨地域ビジョン委員会副委員長 田寺 智砂子

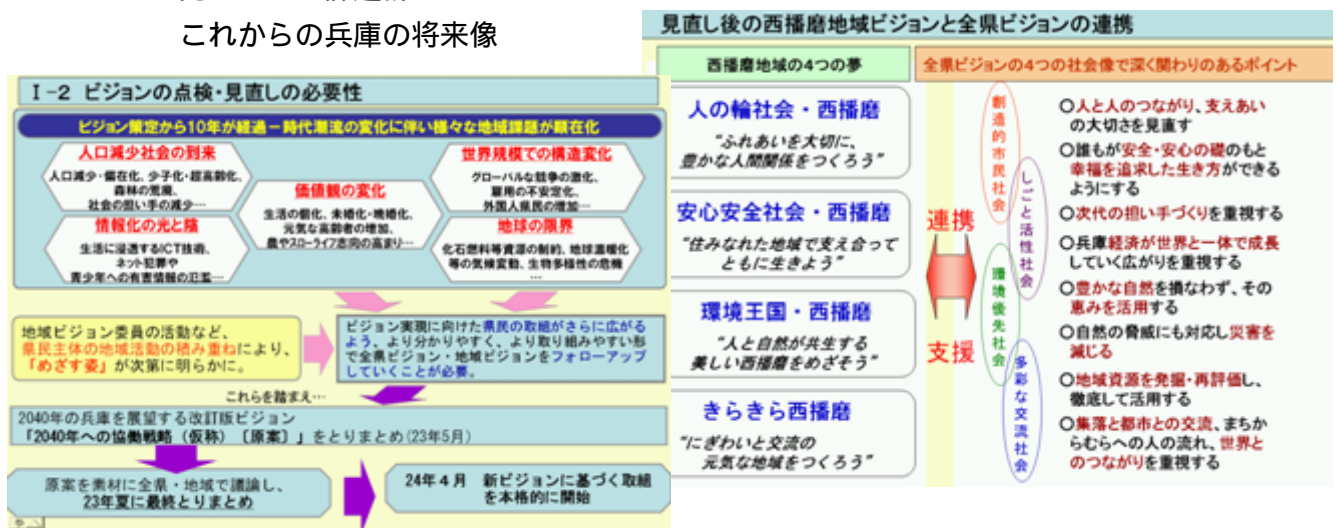
4. 第1部要旨

(1) 「新しい21世紀兵庫長期ビジョン(原案)」プレゼンテーション パワーポイントを用い、以下の項目について説明。

<主な項目>

- 1 21世紀兵庫長期ビジョンの概要と改訂版策定の趣旨
- 2 ビジョンの点検見直しの必要性
- 3 改訂版全県ビジョンの展望年次・想定年次
- 4 改訂版全県ビジョンの役割

ビジョン策定後明らかとなった時代潮流の変化
 県民意見・地域ビジョンの改訂過程から見ためざすべき姿
 見えてきた課題群
 これからの兵庫の将来像



(2) 改訂版「西播磨地域ビジョン」(案)プレゼンテーション

改訂版「西播磨地域ビジョン」案の概要と、案が提示されるまでの経緯を説明。

<主なポイント>

- ビジョンの実現に向けた活動等のふりかえり
- ビジョンの基本姿勢の見直し
- 「～光と水と緑でつなぐ- 元気・西播磨～」
- ビジョンの夢・目標像の見直し
- 第1の夢 人の輪社会・西播磨
- 第2の夢 安全安心社会・西播磨
- 第3の夢 環境王国・西播磨
- 第4の夢 きらきら西播磨
- 新たな地域像を実現するための重点プログラム
- 西播磨重点アクション項目
- シンボルプロジェクト



(3) 意見交換

金澤副知事、高井政策監を交え、一問一答形式で会場との意見交換を実施

< 発言要旨 >

【会場意見】

私は中規模のマンションに住んでいますが、子どもの遊び場がだんだん少なくなってきています。昔はもう少し自由に遊ばよというつもりで考えていたのですが、駐車場では遊べないとか、規制がどんどん重くなって、周りに子どもの遊ぶ場所がほとんどないのが実情です。また、



最近では、赤ちゃんが生まれて泣き声がうるさいとか、近所の勝手なことを言い合っているような噂を聞くと、だんだん住みにくいマンションになってきたなと実感する。

人口減少の問題はありますが、子育てのことを考えて若い人たちを積極的に地域に呼び込もうではないかという政策をとっている地域もあるように聞いています。そういった点がプレゼンテーションの中では少し弱いのではないかと感じました。

また、子どもが小学校に行き始める前に6割の方が公文(塾)に行っていると聞いたことがあります。毎日忙しくて自由に遊べる子ども達が少なくなって、稽古事におわれている。それを親が血相を変えてそれにつきまわっているのが現状だと思います。一方でこういう社会をつくろうといいながら、実際に子どもを育てる段階では競争の社会に巻き込んでいこうとしている。花を見てキレイだとか、感性を育てるような方向性が全然見えてこないと感じています。

子育てに対して社会がどちらを向いているか、人口が減少していることとは別に、何とか若い人たちが子どもを作っていこうではないかという視点を取り入れていただきたいと思っている。なかなか私もそのためにどうしたらいいのかという意見は持っていないのですが、考えを聞かせていただきたい。

【金澤副知事】

子ども達をどう育てていくかというのは、人口が多いか少ないかというのはレベルが違うもので、日本の国が次の世代にきちんとバトンタッチしていけるかという問題があります。単に人口規模が日本にとって適正であるというのとは別に、極端なことをいえば、子どもの数がゼロに限りなく近づいてくるとすれば、日本の国の未来がないという話で大変重要な問題というのはご指摘のとおりだと思います。

問題は大きく分けると、子どもを見守る社会の問題と子どもを生み育てる親・家族の問題と両側にあるように思います。周囲や子育て環境全体からいいますと、お話にもありました、子どもの声がうるさいというような社会であったり、あるいは子ども

の遊び場になるべき場所を押さえ込んでしまって、子どもは地域社会の中で育っていくんだという広い心、温かい心で受け入れるゆとりをなくしてしまった地域社会だとすると、それはいかに一生懸命子育てをする親がいたとしても、それを温かく受け止めてくれる環境がなければよくありません。これは一つの地域社会が社会の財産として、子どもや子どもを育てている親を受け止めるような地域づくりをしなければならぬというのとは一つ問題としてあると思います。

もう一つは、塾通いで遊べていないというご指摘もありましたが、少なくともこの社会の中で子どもを育てている親御さんも、大半はこれまでの日本社会、サラリーマン社会を前提として考えていると思います。それは、良い大学をでて、大きな企業に入り、そして一生安穩で定年まで働き、そのあと年金を貰ってゆっくり暮らせるという社会、これまでの自分が育った社会のシステムを前提にしているという気がします。

しかし、サラリーマン、大企業により日本の社会が転がっていくというのは、今後の人口構成を考えるとそれに乗るわけにはいかないということは色々データも示しましたが、少なくとも我々が心にとめておかなければなりません。その人生シナリオ自体が子どもにとって正解ではないこともあります。自分で事業をおこすような起業家であっても、あるいは、農業であっても林業であっても、これから大事になっていかなければならない環境産業の担い手であっても、おそらく人材のニーズからいうとこれから延びていく分野です。サラリーマンとして大企業の一つの歯車、駒になるよりは、そのような人生、生活に子どもは羽ばたいていく、あるいはそれがこれからの子どもを待っている社会ではないかと思えます。そういうことを考えると今の親の育て方、これからの子どもが直面していく社会のあり方などを本当に見通した上で、それにふさわしいような教育をしていく。育てる側の一つの価値観を変えなければならぬ時期になってきているのではないかと思えます。



だからどうするかというところは十分答えを持ち合わせているわけではないですが、一つは子どもを社会の中で育てるような環境づくりと、子ども世代の人生設計を考えたような教育のあり方、子育ての仕方をというのが鍵になるのではないかというのが、私のちょっとした考えです。

【会場意見】

ビジョンではないのですが現実の問題を一つ。太陽エネルギー、再生可能エネルギー関連で質問します。私は減反政策ということで休耕田を持っています。これはいつでも鋤いて作物を作れる状態で保安全管理してくれという形になってはいますが、いつまで続くかわかりません。

そこで、例えば最近話題になっている太陽電池、パネルを休耕田に貼れるものなのかどうか。ビジョンを少しでも現実のものに近づけていく方法として、色々な問題があると思うが採算ベースに乗るのか乗らないのか現実の問題として、データでもあればご紹介願いたい。

【高井政策監】

詳細なデータは手元にはありませんが、一般的な家庭用太陽光パネルは9年くらいで元がとれるようです。耐用年数が20年くらいありますから、ビジネスになるほどではないが、元をとって若干のおつりが出るということが出来る程度に価格は下がっていきっています。家の屋根だと昔は400万くらいかかっていましたが、今は200万くらいですので相当下がっている。

しかし、それを農地でできるかというビジネスとして田んぼを潰してしまうと、農地の転用ということになってしまいます。農業委員会で認めてもらえれば別ですが、農地転用の許可がないと今のままではできないということになります。こちらは県からも国に対して要件を緩和するような要望はしています。ただ、先だってテレビで見ましたが、「そんなん知るか」と勝手にされている方も日本の中にはいらっしゃいます。田んぼ・畑の良い部分では耕作をして、耕作し辛い法面などにパネルを並べて、実際に電力会社に売っておられる方もいらっしゃいました。ただ、それを日本中でされると大変なことになってしまいます。少数だから黙認されているという現状もあります。やはり根本から制度を考える必要があると思いますから、見直しが必要な部分では国への提案についても力をいれたいと思います。

【会場意見】

自然再生エネルギーが発展すれば、それに関連する産業がでてくると思います。できるだけ取り組みやすい制度となるように、そういった働きかけもお願いしたいと思えます。

【金澤副知事】

これからソーラー産業は伸びていくことと思います。今のお話は農地でしたが、実際に使われてない土地というのは、処理場の埋め立てたところなど本当にものが建てられない場所もありますし、工業団地として予定していたのが、なかなか工場が建たずに空いている土地もあります。もちろん耕作放棄地もありますが、どこを優先してやっていくかというのは、ソーラー産業としてのそろばん勘定もあります。

例えば農地でしたら、日本の国の食料安全保障を考えれば元々持っている農地としての生産量を活かすような形で本来は使わなければなりません。これは日本全体としての選択になりますが、そういう別の角度からの考え方、価値観というのも大事だと思います。そういった場合にソーラー産業に提供する土地の順番をどのように考えるか、その場合農地はソーラー産業に一番適当なところと言うよりは本来は農業生産になんとか使えないだろうかというようにまずは努力をしていくべきではないかと考えます。

【熊谷先生】

今日の講演で多少触れる予定にしていますが、先にそういうお話があったので少しだけお話したいと思います。農地の話は別にして、太陽光パネルはどの程度で元がとれるかというところで9年程度というお話がありましたが、昔は20年ぐらいかかっていました。今は電気を高い値段で買い取ってくれるので、非常にいい住環境にはなりつつあります。実際私の家はオール電化で全てエネルギーを電気で賄っていて、4kwの太陽光発電も付けています。そうすると売り買い差し引きして電気代は年間1万円代です。皆さんの家計と比べてどうでしょうか。

ここ最近で大きく状況は変わっており、産業として発展するのは望ましいことですがビジネスとして儲けになるといったところまでには至っていません。

【会場意見】

東日本大震災で大変な被害がでているが、そこらにおいがひどくて消したいという話がプライベートでありました。われわれ赤穂市民がEMぼかしを4t送りましたところ非常に効果があったということで町長（宮城県内）からお礼のFAXもいただいている。また、自衛隊が撒くので使ってみたいという話もあった。今回行政の方に連絡はしていませんが、そういう部分の対応の仕方についてアドバイスをいただければと思います。あくまで私的な対応で行っています。

【副知事】

東日本大震災の関係では、兵庫県の皆さんは被災経験のある県として、我がことのように色んな支援をしていただいて、県としても心からお礼を申し上げます。

今のお話も行政というよりはプライベートの支援としてされており、それが先方に評価されているというのは大変ありがたいことだと思います。そして、それが自衛隊でも使ってみたいというお話が直接あるのであれば、また、それに対して私的に応えいただけるのであれば、それぞれの立場でやっていただきたい。

しかし、行政につないでもらわないと出来ない部分がある場合のご相談というのは県なり市町なりに全く遠慮なくしていただきたい。おそらく行政が行政ルートで要請を受けて対応するのも必要ですし、そういう部分に出てこない部分でそれぞれの志で支援して喜ばれる支えというのも必要だと思います。それぞれ両面からやっていただくのが望ましいのではないかと思います。

<副知事コメント>

農地の話がでましたのでコメントに付け加えさせていただきます。これは私も非常に気になっているところで、農地だけでなく、商店街の空き店舗や空き家、山林で不在地主さんが管理していないところなど、全然使っていない資産があります。耕作放棄地にしろ、空き家にしろ、現実に有効につかわれ



てないが誰か別の人が保有し、所有権をもっているために社会全体に役立たないという状況にある資産というのは、地域のなかに沢山あって、それをどのように活かしていくかというのは課題として大きいと思っています。これは都市部であっても山間地であってもそれぞれの事情で課題を抱えています。そういう所有権のあり方、今の仕組みは所有権絶対ですので法律上は「自分の持ち物だからどうしてもいいじゃないか」ということになりますが、それでいいのかというのは我々が世の中の仕組み、法律制度の仕組みとして考えて行かなければならないと思います。

東日本大震災からの復旧・復興を考えると、それぞれの土地に区分けされて張り付いている所有権という前提でいいのか。ひょっとしたら漁船なども含めて共同所有権という枠組みを新たに組み立て直して、それで新しい地域のシステムを作り上げていくべきではないかという議論もされるかと思います。それが東日本大震災の被災地に限らず、その所有権と資産を地域のために活かすということ、うまく調和させていくことを新しい課題として取り上げなければならないと考えています。

5. 第2部要旨

(1) 活動発表

チーム名	テーマ	活動内容
子育て支援推進チーム	子育て支援情報の収集と発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン委員自らが取材・編集した子育て支援情報誌「わっ！と西播磨」を発行。全小学校、幼稚園、保育所などに配布。 ・子育て中の人たちや子育て支援団体とのネットワークの拡大と子育て支援情報の共有化に取り組む。
健やかな子ども応援チーム	子どもの健全育成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・論語の素読や絵本の読み聞かせなど子どもの健全育成支援活動を実施。
防災・防犯推進チーム	安心安全なまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の活性化に向けた意識啓発、防災関連施設の視察を実施。 ・管内の自治会を対象とした自主防災に関するアンケート調査を実施。
地域福祉推進チーム	福祉マップ等の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者や高齢者等のための観光福祉マップの作成。 ・高齢者や障害者が安心して楽しめる社会づくりに取り組む。
生活環境推進チーム	環境保全意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・EMの活用による生活環境改善と意識啓発を実施。 ・身近に取り組める環境に優しいライフスタイルの普及啓発に取り組む。
農村来夢（ライム）推進チーム	西播磨の農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模集落と農村の振興方策を検討。農村振興に取り組む団体などの視察見学を実施。 ・西播磨で頑張っている農業の事例集の作成。
はーとふる西播磨推進チーム	西播磨のおもてなし意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの企画運営、サービスによる地域活性化方策の検討。 ・西播磨一斉打ち水の実施。
県境エーとこ発掘隊	西播磨と県境地域の魅力発掘と発信	<ul style="list-style-type: none"> ・西播磨の県境地域資源（自然、人物、特産物）の発掘と発信。 ・西播磨の地域資源を情報収集し、「西播磨の誇り」として地域内外の多くの人への発信に取り組む。

(2) 副知事講評

まずは、お礼を申し上げたいと思います。今の8チームの発表を聞かせていただいて、確かにそれぞれ色々悩みながら、色んな壁にぶち当たりながら、それでも工夫しながら、それぞれのチームの成功体験もあり、うまくいかなかった気分もあり、実感のこもった発表をいただきました。それぞれのチームが、いかに悩み苦しみながら頑張っていたかというのが私もしみじみ伝わりました。本当にありがたく思っています。

それぞれのチームで色々な課題を設定していましたが、これは現実に地域社会の中にあり日々見える課題です。これ何とかしなければいけないということで取り上げられているのだらうと思います。一方で冒頭のプレゼンで高井政策監が申し上げた、全県ビジョンの2040年を見通した大きな流れもあります。個々の地域で直面する課題の裏に、やはり大きな社会の流れがあって、それを県全体としてどう乗り越えていくシナリオを作るか、きちんとそれを作れるのか、皆さんに理解していただけるのか、そういったものを検証するために全県の長期ビジョンをつくる作業を大勢の方々に議論していただいています。

これまで繰り返しビジョンはビジョンで議論するのですが、最初に発表させていただいた社会の流れ、それに対して兵庫県をどのようにつくっていけばいいかというストーリー、シナリオというのは何度議論してもこれで正しい、と正直思っております。西播磨の地域ビジョンも2040年を見通した中で繰り返し議論されて確認されているのではないかと思います。日々の課題はそれぞれ違いますが、そこに共通して流れている認識のもとに、「これを乗り越えていくには、こういう西播磨地域、こういう兵庫県を作っていってほしいんだな。」ということは片方ですと確認しながら、共通の流れの中で、ある意味の確信を持ちながら、それぞれの個別のテーマを乗り越えていただく作業が必要なのではないかと思います。それこそがビジョンづくりをする意味だらうと思っています。

少子高齢化が進み、例えば西播磨でも人口が全体として30%減りますとか、高齢者比率が50%に近づきますとか数字そのものは疑いようのない見通しとして認めざるをえないですが、今の高齢者の定義65歳以上、生産年齢人口は15歳から64歳までというのは、これまでのサラリーマン社会を前提にできている数字です。第1部



でも少しお話しましたが、企業に雇われてサラリーマンとして働くことが社会の典型的なパターンであれば、それは定年年齢65歳で、そこから先は年金に頼って暮らすことになってしまうのですが、これから先、それではおそらく日本の社会は成り立っていきたくはないです。ですからサラリーマンとし

て雇われるというのが日本の男性の生き方の典型だ、女性は家庭の中でそれを支えるのが典型だというような、典型がこうだという思いこみ自体が変わっていくと思います。

それは我々の子どもの世代になれば明らかになっていくということを共通認識として持てば、65歳以上の人口が何%、生産年齢人口が何%という単なる数字にとらわれることなく、「小学校、中学校にあがる前、15歳より前から事業をおこすような子どもを育てるにはどうしたらいいか。」「あるいは65歳を過ぎてもそれぞれ年齢に関係なく働き続けることができるような社会をつくるにはどうしたらいいか。」と、そうした発想で社会づくりに取り組んでいくことになると思います。

長期ビジョンというのはそういう認識の入り口、すでに入っているかもしれませんが、日本の社会の流れ、あるいは兵庫県の社会の流れの中で、これから取り組んでいくことを明らかにしようというものであります。今日お集まりの皆さんをはじめ、県庁で色々作業をしている我々、それぞれの地域で色々な課題にとりくんでいる皆さん、みんな一つの想いは共通にしながらそれぞれの責任、課題に取り組んでいく。そういう形でこれからも進めさせていただけたら大変ありがたいと思っております。今日は私にとっても貴重な機会をいただきました。ありがとうございました。

(3) 講演会

講師 兵庫県立大学環境人間学部 教授 熊谷 哲 氏
テーマ 「原発事故と親子で取り組む省エネ」

< 講演概要 >

福島県で発生した地震・津波による原子力発電所の事故は、静岡県の浜岡原子力発電所の停止問題にまで発展し、日本全体のエネルギー・電力不足と放射能の風評被害が大きな社会問題となっています。

これらの対処にはまず放射能に対する正しい知識を得ることが重要であることから、放射性物質の量を示す「ベクレル」や、放射線を浴びた量を示す「シーベルト」などの話と実際に放射性物質「セシウム137」を用いて放射線測定装置による演示実験が行われました。

引き続きエネルギー不足の対策として、演者らがこのたび開発し、家庭において親子で簡単に省エネ診断ができる地球温暖化対策ソフトウェア「うちエコキッズ」の紹介がされました。



<会場からの質問>

【会場意見】

ビジョン委員会で大飯の原発を見学に行ったが、量の多い低レベルの廃棄物はどのように処理されているか聞くことができなかった。高レベルの廃棄物は地中に埋めたり、プルトニウムに返還したりして処理していると聞いたが、それは量が少ないからできることだと思います。先日、テレビで見たが学校の運動場の表面だけ汚染された土をとって、その土を何処に持っていかでもめていました。表面の土をとれば確かに運動場自体の数値は落ちるのですが、そういった低いレベルで滞留している廃棄物処理の良い方法を実際にご存知であれば教えていただきたい。

【熊谷教授】

低レベルの放射性廃棄物ははっきりいってしまえば処理しようがないですね。今回の原発事故でも低レベルのものは最終的に放出してしまいましたが、実際はかなり量が多かったですね。私も研究に放射能を使っており、非常に低レベルの廃棄物を出していましたが、それは日本アイソトープ協会というところが引き取って処理していました。もちろん原発の場合は別ですが、低レベルについてはかさが増えていきますから、消却処分をしても量が多いため、扱いには困ると思います。特に土なんかは難しい。ひまわりを植えるという話もありますが、それを刈ったものを何処にもっていくのかという別の問題が発生します。結局、放射能は消えませんが科学的にも濃縮してどっかに閉じこめるしかないと思います。

【会場意見】

若いころですが、日本で初めての商業用原子炉の建設に携わったことがあります。そのころは鉛が放射線をシャットアウトするというので、大きなコンクリート1 m ぐらいの中に鉛の入った基礎を見たことがあります。効果のほどはあったのでしょうか。また、今特に問題になっているセシウムについては、何十年たっても消えないと聞きます。フランスなどでは汚染を取る装置もできつつあるという話も聞きますが、日本ではそういう研究は進んでいるのでしょうか。

【熊谷先生】

私が大学、大学院で所属した講座というのが放射科学という講座でした。放射科学とは、正しくそういった研究を行うものです。ただ、原子炉に関する技術というのは日本では成熟しており、そういった研究を行う大学も少なくなってきましたので、研究自体はあまりされていないというのが実情です。もちろんある程度関係はあるのですが、私も少し離れて環境とか科学的な物質の方に研究をシフトしている。

お話のあったセシウムですがセシウム137の半減期は30年です。30年経ったら半分になります。300年たったら千分の一になりますが、そのようなレベルです。

それから、ガンマ線というのは鉛で止めやすいのです。その性質を利用して高濃度の廃棄物は固めて地中に処分するというのが現在考えられている方法ですが、ヨーロッパと日本（環太平洋）では地震が多いという違いがあります。原子力発電所の建設場所には活断層がないと言われていましたが、それは間違いだということは既に常識になっていますし、破碎帯も多く見つかっているのも事実ですから、どこに埋めたら安全かという答えはありまへん。そういう意味では地中への処理を今後どんどん広げていくということについては考えを変える必要があります。急に今から止めましようということとはできないと思いますが、今後10年、20年かけて徐々に危険なものは減らしていくということができたらいいのではないのでしょうか。

代替エネルギーとして、太陽光も含め自然再生のエネルギーにシフトしたいなと思えますが、実際できるかということと非常に難しいです。管総理が1000万世帯に太陽光発電つけましようと言っていますが、これで賄えるかということとそうはいきませんので、そのところは非常に難しいなと感じています。エネルギー問題は日本の将来を左右しますから、皆さん自身も一緒に真剣になって考えていただければありがたいです。

6. 地域夢会議を終えて

【閉会挨拶より～抜粋】

今回の夢会議では西播磨地域ビジョンに沿って各チームでテーマを決めて色々工夫しながら取り組んできたことを皆さんの前で発表させていただきました。今後、これまでの活動を発展させたり、新たなテーマをもって各チームで活動を続けていく予定ですので皆さんご協力よろしくお願いします。

それから熊谷先生からこのたびの原発事故をうけて、放射能やエネルギー問題などわかりやすくお話していただきました。今まで当たり前のように送ってきた生活のスタイルも各自が意識をもって考えて変えていかないといけないのかなということを実際に身近に感じる機会となりました。

また、2040年度を想定しました、新しい21世紀の長期ビジョンのプレゼンテーション、それから西播磨地域ビジョンの改訂版のプレゼンテーションも行いました。今の色々な状況などを踏まえて、さらに住みやすい、美しい西播磨を実現できるように、それぞれが家庭から地域から考えて活動していけたらと思います。